

第 4 4 期 事 業 報 告 書

2004年4月1日 ~ 2005年3月31日



株式会社島精機製作所

Ever Onward—限りなき前進

全自動手袋編機の開発を原点とする当社は、創業当初から『世界初』の製品づくりという目標を掲げるとともに、『Ever Onward 限りなき前進』を経営理念とし、創意と工夫により最高機能の製品を経済的な価格でお届けすることを基本に、常に顧客の立場に立ち、ニーズを先取りした製品開発を行ってまいりました。

さらに人々の生活に欠くことのできない「衣」の分野において、労働集約型産業から知識集約型産業への転換を促し、今までにない魅力ある商品づくりや新しいビジネスモデルを業界に提案すべく、独自の技術開発に全力をあげており、ハードウェア、ソフトウェアに加え、ノウハウ、デザインまでも包含した総合的なサービスと情報を提供し、ファッション産業を始めとするユーザー業界の活性化に貢献し、新しい衣の文化を創造し、世界中の人々の心を豊かにすることを目指しています。

総合メカトロニクス企業として、今後も創業の原点に立ちかえり、新たな『創造』にチャレンジし続ける当社に、より一層のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



CONTENTS

p.1	・・・ 企業理念	p.11-14	・・・ 財務データ
p.2	・・・ 第44期の取組み	p.15	・・・ インフォメーション
p.3-4	・・・ 社長インタビュー	p.16-18	・・・ アンケート集計結果
p.5	・・・ 決算ハイライト	p.19	・・・ 会社概要
p.6	・・・ 営業報告	p.20	・・・ 株式の状況
p.7-10	・・・ トピックス	p.21-22	・・・ 株主優待のご紹介他

第44期（2004年4月1日～2005年3月31日）の取組み

この1年間、当社グループでは次のような様々な取組みを行ってまいりました。

<p>4月</p>	<p>2日【新製品開発】新機種ホールガーメント横編機SWG021、超ファインゲージ手袋編機NewSFG18ゲージを発表</p> <p>5日【テレビ放映】テレビ東京系「ニッポンの！突破宣言」で当社紹介</p> <p>30日【IR】第43期決算を発表</p>	<p>10月</p> <p>9日【新製品開発】わかやま商工まつり産業展に新機種SWG041を出展</p> <p>28日【IR】中間決算を発表</p>
<p>5月</p>	<p>21日【受賞】本社ビルライトアップ施設が「照明普及賞（優秀施設賞）」を受賞</p>	<p>11月</p> <p>1日【新聞報道等】日経ビジネス11/8号「ひと烈伝」に島正博社長の紹介記事掲載</p> <p>4日【展示会】イタリアン・ヤーン・ランデヴーに出展（東京）</p> <p>12日【IR】定款授権に基づく取締役会決議により自己株式取得（63,000株）</p>
<p>6月</p>	<p>10日【プレスリリース】組織改革及び人事異動を実施（経営管理部を新設、役員人事など）</p> <p>29日【IR】第43回定時株主総会を開催</p>	<p>12月</p> <p>1日【展示会】ジャパンクリエイション2005に出展（東京）</p> <p>10日【CSR】子会社㈱シマファインプレスで太陽光発電設備を設置、稼動開始</p> <p>11日【テレビ放映】TBS系「ブロードキャスター」で当社紹介</p>
<p>7月</p>	<p>7日【展示会】PITTI IMAGINE FILATI展に出展（イタリア・フィレンツェ）</p> <p>中旬【CSR】新潟豪雨被災地にニット産地の復旧支援として社員を派遣</p> <p>30日【IR】第44期第1四半期決算を発表、株式売出しを決議（100万株）</p>	<p>1月</p> <p>5日【新聞報道等】毎日新聞「人生流儀」に島正博社長の紹介記事掲載</p> <p>28日【IR】第3四半期決算を発表</p> <p>29日【テレビ放映】毎日放送「せやねん！」で当社紹介</p>
<p>8月</p>	<p>中旬【CSR】アテネ五輪開幕、当社が支援した佐竹・吉迫ペアがセーリング女子470級に出場</p> <p>23日【新製品出荷】ホールガーメント横編機SWG-X8ゲージをスペインのユーザーに初出荷</p> <p>24日【新製品出荷】コンピュータ横編機SES123Siをイタリアのユーザーに初出荷</p>	<p>2月</p> <p>4日【受賞】「関西財界セミナー賞2005・大賞」を受賞</p> <p>3月</p> <p>14日【その他】新工場FA2号棟起工</p> <p>16日【受賞】「デザイン・エクセレント・カンパニー賞」を受賞</p> <p>下旬【その他】個人情報保護方針を制定</p>

株主の皆さまへ

第44期の業績のご報告と今後のビジョン

Q 第44期の業績の概要について教えてください。

第44期は、海外売上比率がさらに高まり、アジアへの集中が進んだ一年といえます。中でも香港、中国への横編機の設備投資が、需要の拡大に加え規制撤廃も追い風となり急増しました。一方、近年順調に売上を伸ばしてきたホールガーメント[®]（無縫製ニット）横編機は、日本国内では天候要因による消費不振が影響し大幅な減少となりました。また、デザインシステムはほぼ前期並みとなりましたが、手袋靴下編機は作業手袋分野において中国での模倣機の影響もあり売上は半減しました。結果として、連結売上高はほぼ前期並みを確保しましたが、利益面では製品構成の変動による利益率の低下等により営業利益、経常利益はそれぞれ減少しました。一方で当期純利益は前期の特別損失が減少したことなどで過去最高を更新しました。

Q アパレル・ファッション業界でのシマセイキの役割についてどのようにお考えですか。

繊維産業は労働集約型産業の典型であり、それゆえ中国などのコスト競争力を持った地域へ生産拠点が移転し先進国では空洞化が起きている。しかしファッショントレンドの移り変わりが激しい中で、モノづくりの場を消費地から遠く離れた国に求めることは、ビジネスチャンスを見失うことに直結します。当社ではクイックレスポンスに対応したホールガーメント[®]と、デザインシステムを中核としたIT技術をリンクさせ、トータルなビジネスソリューションとして提供すること



代表取締役社長 島 正 博

で、先進国でのニット生産を知識集約型産業にシフトさせてまいります。またデザインシステムSDS-ONEではモノづくりの流れをスムーズにするとともに、企画検討段階でのバーチャルサンプルの提供によりコスト削減と時間短縮を提案しています。

Q ホールガーメント[®]の浸透状況について。

海外からの安価な製品が大量に流入し続けている日本や欧州では、付加価値の高いホールガーメント[®]製品によるモノづくりが不可欠の存在となっています。95年の発売以降、ホールガーメント[®]横編機の累計販売台数はすでに3,620台（日本1,150台、海外2,470台）を数え、国内では大手アパレルでの採用が着実に増加しています。また繊維製品の販売ノウハウを持つ大手商社がアパレルやニットメーカーと協業体制を組んだり、ホールガーメント[®]専用系を続々と開発する紡績各社、また国内各地のニット産地におけるメーカーの取組みなど、ホールガーメント[®]の浸透が加速してきています。

Q 海外売上でアジアの比率が高まっていますが海外戦略についてお聞かせ下さい。

第44期の海外売上高は402億68百万円となり、前期に比べ約21億円、5.5%増加しました。特に東南アジア地域の売上が約71億円増え、海外売上高に占める比率が70%近くに急増したことが大きな要因となっています。コンピュータ横編機はアジア市場に加え、欧州向けの生産拠点であるトルコも主要市場の一つであり、今後もコスト競争力の高い労働力を背景に順調な推移となるでしょう。一方消費地に近い欧州市場は日本と同様に付加価値の高いホールガーメント[®]の生産を進めることでアジア市場とのすみ分けを進めております。このようにアジア地域の比率が高まると為替対策がますます重要性を増してきます。円建売上比率の向上を基本とし、外貨建の債権に関してはできる限り為替予約を始めとした組織的なリスクヘッジに取り組んでまいります。

Q 株主価値の向上に向けてどのようにお考えですか。

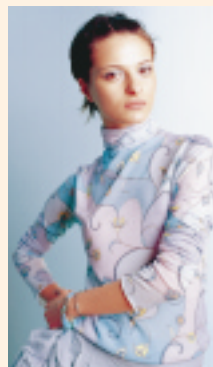
当社では株主様への利益還元を経営の最重要課題の一つと位置付けています。利益配分のうち株主配当金につきましては、長期にわたる安定配当の継続を第一と考え、業績の向上を基本とし収益予想や将来の事業展開などを勘案したうえで、配当性向20%以上を確保できるよう、取り組んでおります。また内部留保は、技術開発型企業として積極的かつ戦略的な設備投資・研究開発投資など、有効に活用する方針です。

Q 次期の見通しについて、また株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

第45期はホールガーメント[®]横編機を発売して10周年となります。これを記念したイベントとして「ファッションショー」の開催やミラノでの「IKME展」への出展など、ホールガーメント[®]の拡販に向けて積極的な先行投資を実施します。こうした企画提案型の販売戦略により日本、欧州市場は回復基調となる見込みです。急増してきた香港・中国に不透明感はあるものの前期以上の売上を予想しており、トルコも堅調に推移するものと考えています。次期の業績は、連結ベースで売上高470億円、営業利益90億円、経常利益90億円、当期純利益50億円を計画しています。

当社では、中長期的な経営戦略としてコンピュータ横編機業界でのシェアアップ、アパレル関連業界全般へのデザインシステムの積極的な提案、手袋靴下業界への販売拡大などを掲げており、今後も安定的な成長を目指しています。

株主の皆さまにおかれましては、これまでと同様、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

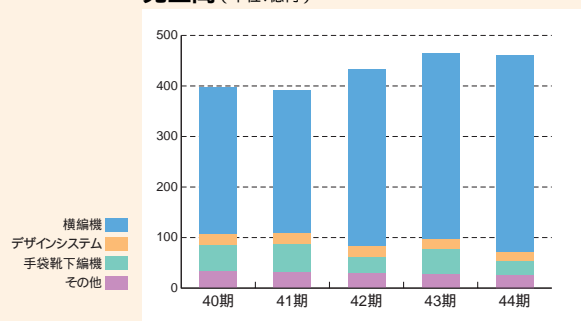


決算ハイライト

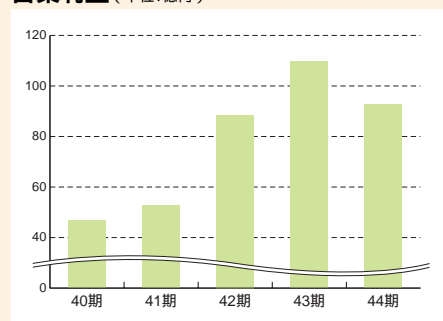
科 目	連 結		単 体	
	当 期 (2005年3月期)	前 期 (2004年3月期)	当 期 (2005年3月期)	前 期 (2004年3月期)
売 上 高 (百万円)	46,094	46,420	43,960	45,989
営 業 利 益 (百万円)	9,257	10,972	7,343	10,085
経 常 利 益 (百万円)	9,363	10,316	7,645	9,719
当 期 純 利 益 (百万円)	5,930	5,623	4,952	5,518
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)	159.97	150.64	133.44	147.89
総 資 産 (百万円)	107,234	102,852	103,509	99,679
株 主 資 本 (百万円)	92,115	87,903	86,477	83,289

業績の推移 (連結)

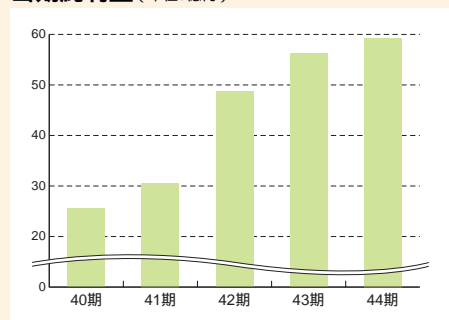
売上高 (単位: 億円)



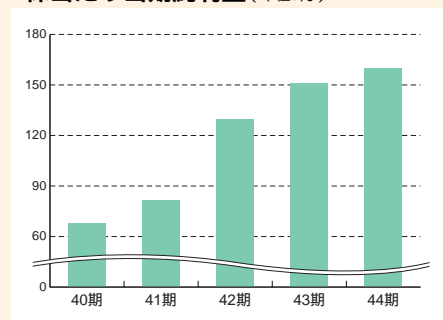
営業利益 (単位: 億円)



当期純利益 (単位: 億円)



1株当たり当期純利益 (単位: 円)



営業活動のご報告（連結）

横編機部門

海外市場におきましては、横編機の海外売上高全体の70%近くを占めるアジア市場の中でも、香港が対欧米への生産拠点として設備投資が活発な推移となり、輸入割当制



SWG-X
ホールガーメント
コンピュータ横編機

限（クオータ）撤廃とも相まって、大幅に売上を伸ばしました。中国生産のニット商品は輸出・内需ともに高水準な推移となったものの、金融引締め策の影響もあり売上は前期に比べほぼ横ばいとなりました。欧州市場では、消費地型生産拠点のイタリアでミラノデザインセンターの機能強化に伴い、ホールガーメント[®]横編機の需要が回復基調で推移し、米国でも大型投資により売上を伸ば

しました。一方、前期急速に拡大した中東のトルコでは、調整局面が続き売上は大幅な減少となりましたが、下期に投入した新機種SES-Siが香港、イタリアなどで導入が進んだこともあり、海外売上高は前期に比べ若干の増加となりました。

国内市場では、ホールガーメント[®]製品の店頭での認知度は高まりましたが、猛暑、暖冬といった天候要因や台風、地震などが相次いだことによる消費需要の落込みが、新規の設備投資の停滞につながり、国内売上高は前期に比べ大幅に減少しました。

横編機事業全体としては、売上高は389億79百万円（前期比6.0%増）となりました。販売台数はアジア市場の好調を反映し、3期連続で過去最高を記録しました。

デザインシステム関連部門

デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界におけるデザイン企画とモノづくりの現場、流通、小売をITによって直結するツールとして、ALL in ONEコンセプトを持つ「SDS-ONE」の提案販売に注力したことで、高付加価値のモノづくりを支援する機能性と操作性の良さが高く評価されました。海外市場はイタリアを始めとして堅調な推移となりましたが、国内市場で前期を若干下回った結果、売上高は18億95百万円（前期比2.8%減）となりました。



SDS-ONE
デザインシステム

手袋靴下編機部門

手袋靴下編機事業では、旧来の作業手袋分野において中国市場での模倣機の影響などもあり、主要輸出先である韓国、中国で売上が大幅に減少し、売上高は26億10百万円（前期比48.1%減）と厳しい状況となりましたが、ファインゲージ化や高ファッション商品などの用途開発を進めることで、業界に新たな付加価値を提案しております。



NewSFG
シームレス手袋編機

トピックス

付加価値の創造

「新しい魅力」による差別化の推進

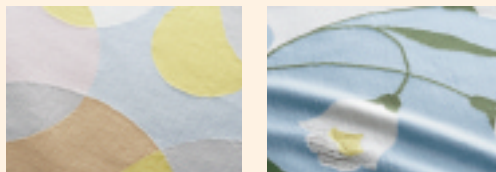
昨今のアパレル・ファッション業界において、世界的に大きな潮流の変化が見られます。なかでも、中国に対する輸入割当制限（クオータ）の撤廃は、欧米や日本など消費地でのニット生産に抜本的な構造改革の必要性をもたらしています。一方で、中国等での一極生産は、リスク分散という観点から他の地域へもシフトしており、あわせて消費者ニーズの変化に効率的に対応できるクイックレスポンス体制を確立する動きとも相まって、消費地での生産へ回帰する流れも現れています。

ユーザー業界におけるこのような潮流のなか、当社は消費地型生産の市場に向けて、**ホールガーメント[®]横編機**などによる新しい魅力のあるモノづくりを提案し、拡販・浸透を進めています。



ホールガーメント[®]では、従来機によるニット商品では表現できないデザインや編組織の無縫製ニットを高い採算性をもって生産できます。さらに縫い目がないことは着心地もよく軽いため、ユニバーサルデザインの面からも注目されています。従来のニット商品のターゲットはレディース中心でしたが、このような技術的な優位性から、メンズやキッズ、シニア、さらにはスポーツなど幅広い市場でポテンシャルは高まってきました。

当社の技術開発は**ホールガーメント[®]横編機**だけでなく、既存機種**のSESシリーズ**においても、付加価値の創造に向けた進化がはかられています。特に、**SES-Si**の開発により、高速化と編成の自由度が大幅に向上し、インターシャ編成による繊細で多彩な柄や曲線を鮮やかに表現することができるようになり、より高付加価値な商品生産が可能となりました。



インターシャ編成によるオリジナルサンプル



組織柄データベース

バーチャルサンプル

さらにこれまで多くの時間を要していたサンプル作りにおいても、リードタイム、コストの大幅削減を目的としたSDS-ONEによるビジュアルデータの活用を提案しています。SDS-ONEによるバーチャルサンプルを利用することで、デザイナーの感性や発想をそのままサンプルとして表現することができるうえ、極めて短時間で多様なサンプル展開が可能です。また、コミュニケーションツールとして企画からデザイン、生産、販売促進までの一連のワークフローの様々な段階を経ても、同一のシステム上でビジュアルの展開を進めるため、その魅力を失うことなく再現することができます。



柄データベース



デザインシステム
による配色パターン



SDS-ONEを中心にアパレル製品のモノづくりにおける一連のフローをシステム化した図式【Big Tree】

また、無製版プリントシステムSIP-100Fによるプリントなどを組み合わせることで、さらに付加価値の高いニット商品の生産をサポートしています。さらに自動裁断機P-CAMシリーズとの連動ができるなど、一連の製品ラインアップが高い評価を受けています。

このように当社では、デザインツールとしてのSDS-ONEを核に、ホールガーメント[®]横編機をはじめとした当社製品を効率的に組み合わせたトータルニットシステムを通じて高付加価値商品を創造することを提案しています。そして、こうした新たなビジネスモデルこそが、世界的に二極化したユーザー業界におけるソリューションとして受け入れられるものと確信し、これらの提案を通じ、ファッション産業の発展へ寄与することで積極的な営業展開を図り、業績の向上に努めてまいります。

『関西財界セミナー賞2005・大賞』
『デザイン・エクセレント・カンパニー賞』受賞

社団法人関西経済連合会と社団法人関西経済同友会の共催による第43回関西財界セミナーにおいて創設された「関西財界セミナー賞2005・大賞」を受賞いたしました。

世界初の「ホールガーメント[®]（無縫製ニット）横編機」を始めとして、常に革新的・独創的な商品開発によって、国内ニット業界の競争力強化に貢献するとともに、魅力的で斬新なファッションの創造に向け、ファッション流通業界における新しいモノづくりのあり方を提案し、日本を代表するグローバル優良企業として多大な貢献を果たしたことが高く評価されました。



また、財団法人日本産業デザイン振興会の「デザイン&ビジネスフォーラム」においてデザインを企業戦略に積極的に活用している会社に贈られる「デザイン・エクセレント・カンパニー賞」を受賞いたしました。

当社のオリジナリティあふれる開発力によって、デザインを通じ、質の高い商品・サービスを提供するとともに、経営者自らがデザインの重要性を認識し、その実践者として活躍している点などが評価されました。



新工場の建設
～フレキシブルな生産体制の確立～

ホールガーメント[®]横編機およびコンピュータ制御横編機をはじめとする主要製品のフレキシブルな生産体制を確立するため、新工場（FA（Factory Amenity）2号棟）の建設に着手いたしました。

この工場の建設により、現有生産能力の20%アップが可能となり、ここ数年続く販売台数の大幅な増加に将来的にも対応することができるようになります。

また、この工場は、太陽光発電設備の設置を始め各種の消費電力量の削減の取組み、さらには耐震性能の向上など、「地球環境に配慮した省エネルギーと人にやさしく快適な次世代工場」をコンセプトに設計されております。

- 【工場概要】 鉄骨造平屋建
床面積 5,925.39㎡
【完成予定】 2005年12月



新工場の建設現場（右奥側）

感性と技術の融合 ～機能強化されたミラノデザインセンター～

世界のファッションの中心地であるミラノには、最新のファッショントレンドを求めて、世界中から多くの人々が訪れます。

そのミラノに拠点を置く「ミラノデザインセンター」は、機能が大幅に強化され、日本から送られる5,000点を超える最新のニットコレクションを展示しており、当社はこれらのニットコレクションを媒体として、ここを訪れるデザイナーと技術や感性のコミュニケーションを行っています。ニットコレクションを通じ、新しいニットの表現技術を発信すると共に、デザイナーとのコミュニケーションから、ファッションのトレンドに関する最新の情報を収集します。そして、それらの情報は当社の技術にフィードバックされます。イタリアの新鮮な感性情報を糧として、当社のニット技術は、より豊かな表現力を備えた技術へと日々進化しています。

イタリアの感性を吸収した技術が新しいニットファッションを産み、それが再びイタリアのファッションに影響を与える。このサイクルを回し続けるエンジンとなっているのがミラノデザインセンターなのです。



企業の社会的責任(CSR) ～社会貢献活動の推進～

地域社会との共生

敷地を提供した歩道の美化推進や緑化などを通じ周辺地域の環境の向上に努めております。また、道路に大型の街灯を設置し、地域の防犯・安全面に配慮した取組みを行っています。

さらに夏期にはプールなど当社施設を開放し、地域の住民の方にご利用いただいたり、夏祭りを開催するなど、地域社会の一員としての活動も展開しております。

環境への配慮

太陽光発電システムを積極的に採用するなど地球環境に配慮した取組みを進めております。現在建設中の工場にも太陽光発電設備を計画しており、現有設備と併せると、民間企業では国内最大規模となる予定です。



また、開催中の愛知万博（愛・地球博）にも協賛しています。

新潟県中越地震などへの支援活動

新潟県中越地震の際には社員と会社による義援金の拠出や客先への技術支援、水害の際には被災客先への積極的な援助など、被災されたみなさまの一日も早い復興を願って支援活動を行いました。

財務データ（連結）

資 産

売上高が高水準であったことにより、受取手形及び売掛金が増加し、前期末に比べて43億81百万円増加しました。

負 債

横編機の生産台数が過去最高を記録したことで、仕入に係る支払手形及び買掛金が増加しましたが、未払法人税等が減少したことにより前期末に比べて若干増加しました。

資 本

当期純利益が過去最高を更新したことで、利益剰余金が増加し、前期末に比べて42億12百万円増加しました。株主資本比率は0.4ポイント上昇し、85.9%となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2005年3月31日現在	2004年3月31日現在
流動資産	76,862	70,953
現金及び預金	10,187	8,192
受取手形及び売掛金	55,581	51,562
その他	13,345	12,843
貸倒引当金	2,253	1,644
固定資産	30,372	31,898
有形固定資産	18,205	18,470
土地	10,611	10,388
その他	7,594	8,081
無形固定資産	138	125
投資その他の資産	12,028	13,302
投資有価証券	4,447	4,752
その他	8,555	9,448
貸倒引当金	975	898
資産合計	107,234	102,852
流動負債	12,550	12,376
支払手形及び買掛金	5,429	4,763
その他	7,121	7,613
固定負債	2,384	2,420
退職給付引当金	1,498	1,497
その他	886	923
負債合計	14,935	14,797
少数株主持分	183	152
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	63,381	60,408
土地再評価差額金	5,135	6,657
その他有価証券評価差額金	155	240
為替換算調整勘定	189	235
自己株式	2,680	2,436
資本合計	92,115	87,903
負債、少数株主持分及び資本合計	107,234	102,852

売上高

海外市場は香港向け横編機が大幅に伸び、前期比5.5%の増加となりましたが、国内市場は輸入ニット製品の影響や天候要因などにより前期比29.3%減少し、全体としては前期に比べて0.7%の減少となりました。

利益

香港、中国での販売競合や大口取引による販売価格低下などにより、売上総利益率が低下し、営業利益が前期比15.6%、経常利益が前期比9.2%減少しましたが、当期純利益は特別損失の減少などにより前期に比べて5.4%増加し、過去最高益となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2003年4月1日から 2004年3月31日まで
売上高	46,094	46,420
売上原価	25,276	24,073
売上総利益	20,817	22,346
販売費及び一般管理費	11,559	11,374
営業利益	9,257	10,972
営業外収益	462	364
営業外費用	356	1,020
経常利益	9,363	10,316
特別利益	227	67
特別損失	72	864
税金等調整前当期純利益	9,518	9,520
法人税、住民税及び事業税	2,739	4,809
法人税等調整額	813	902
少数株主利益又は損失()	34	10
当期純利益	5,930	5,623

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2003年4月1日から 2004年3月31日まで
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	21,724	21,724
資本剰余金増加高	0	-
自己株式処分差益	0	-
資本剰余金期末残高	21,724	21,724
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	60,408	56,241
利益剰余金増加高	5,930	5,623
当期純利益	5,930	5,623
利益剰余金減少高	2,957	1,456
配当金	1,377	1,387
役員賞与	58	52
土地再評価差額金取崩額	1,522	17
利益剰余金期末残高	63,381	60,408

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2003年4月1日から 2004年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	9,518	9,520
減価償却費	997	1,021
受取利息及び受取配当金	333	252
売上債権の増加額	3,950	8,910
たな卸資産の減少額(増加額)	452	116
仕入債務の増加額	616	405
その他	1,028	910
小計	7,423	2,811
利息及び配当金の受取額	326	250
利息の支払額	15	9
法人税等の支払額	4,388	4,261
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,346	1,208
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増加額(純額)	230	715
有価証券の減少額(純額)	65	0
有形固定資産の取得による支出	1,468	1,037
有形固定資産の売却による収入	740	102
投資有価証券の取得による支出	1	200
投資有価証券の売却による収入	421	591
その他	346	442
投資活動によるキャッシュ・フロー	819	816
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増加額(純額)	800	1,700
自己株式の取得による支出	246	955
配当金の支払額	1,376	1,387
その他	0	3
財務活動によるキャッシュ・フロー	823	639
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	33
現金及び現金同等物の増加額(減少額)	1,728	2,697
現金及び現金同等物の期首残高	7,269	9,966
現金及び現金同等物の期末残高	8,998	7,269

営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の流動化や回収早期化に取り組んだことにより、売上債権の増加額が前期に比べて減少し、営業活動で得た資金は33億46百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

生産の効率化を図るため、機械装置・金型の購入、本社周辺土地の取得などにより、投資活動で使用した資金は8億19百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払や自己株式の取得などにより、財務活動で使用した資金は8億23百万円となりました。

財務データ（単体）

貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	2005年3月31日現在	2004年3月31日現在
流動資産	72,847	67,353
固定資産	30,662	32,325
有形固定資産	16,459	16,936
無形固定資産	115	112
投資その他の資産	14,087	15,276
資産合計	103,509	99,679
流動負債	14,854	14,162
固定負債	2,176	2,226
負債合計	17,031	16,389
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	57,560	55,562
土地再評価差額金	5,135	6,657
其他有価証券評価差額金	149	237
自己株式	2,680	2,436
資本合計	86,477	83,289
負債及び資本合計	103,509	99,679

損益計算書

（単位：百万円）

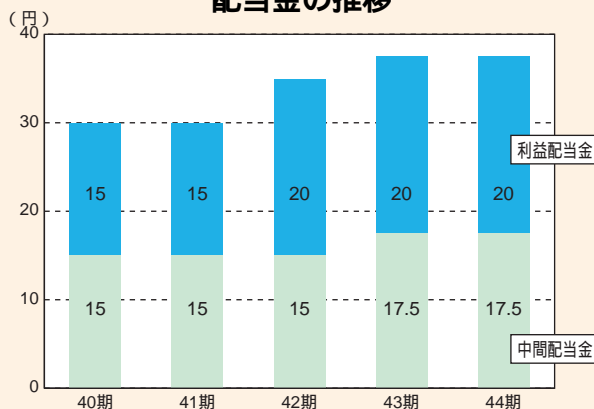
科 目	当 期	前 期
	2004年4月1日から 2005年3月31日まで	2003年4月1日から 2004年3月31日まで
売上高	43,960	45,989
売上原価	26,049	25,463
売上総利益	17,910	20,526
販売費及び一般管理費	10,567	10,441
営業利益	7,343	10,085
営業外収益	750	763
営業外費用	448	1,129
経常利益	7,645	9,719
特別利益	226	67
特別損失	79	829
税引前当期純利益	7,792	8,958
法人税、住民税及び事業税	2,145	4,401
法人税等調整額	694	961
当期純利益	4,952	5,518
前期繰越利益	3,042	2,230
土地再評価差額金取崩額	1,522	17
中間配当額	642	647
当期末処分利益	5,830	7,084

利益処分

（単位：円）

科 目	金 額
当期末処分利益	5,830,073,061
特別償却準備金取崩額	10,331,193
計	5,840,404,254
これを次のとおり処分いたしました。	
利益配当金	733,311,140
（1株につき20円）	
役員賞与金	55,000,000
（うち監査役賞与金）	（2,700,000）
特別償却準備金	1,466,743
別途積立金	2,000,000,000
次期繰越利益	3,050,626,371

配当金の推移



個人情報保護に関するお知らせ

個人情報保護方針を制定

当社では、『個人情報保護法』にもとづき、収集・管理・利用している個人情報を適切に保護するよう努めています。当社が制定した個人情報保護方針は下記のとおりです。

(1) 個人情報の収集、利用、提供、預託

お客様から個人情報を収集する場合は、収集目的を明示した上で、必要な範囲でお客様の個人情報を収集します。収集した個人情報は収集目的の範囲内で利用を行います。

法的な要請等によらない限り、お客様の事前承認なく第三者に開示・提供することはありません。また、お客様の個人情報を業務委託先に提供する場合、秘密保持契約等によって業務委託先に個人情報保護を義務付けます。

(2) 個人情報の安全対策

個人情報の紛失、破壊、改ざん、および漏洩を防止するため、必要かつ適切な安全管理措置としての情報セキュリティ対策を講じるとともにその改善に努めます。

(3) 法令およびその他の規範の遵守

個人情報の取り扱いについて、個人情報保護法をはじめとする個人情報に関する法令およびガイドラインを遵守します。また、個人情報保護に関する社内規程類を整備し継続的な改善に努めます。

当社ホームページ・IR情報のご紹介

当社ホームページでは、財務情報をはじめ多くの情報を公開しています。

当社が作成したニットサンプルなども月ごとに最新のものを掲載しておりますのでぜひご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.shimaseiki.co.jp/>



IR情報のページ
決算短信などの財務情報や各種開示情報、株主優待に関する情報などをご覧ください。

ニットサンプルのページ
当社が企画・デザインしたサンプルをご覧ください。



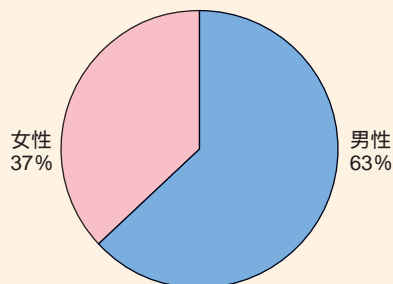
ホールゲームメントのページ

株主様アンケート集計結果のご報告

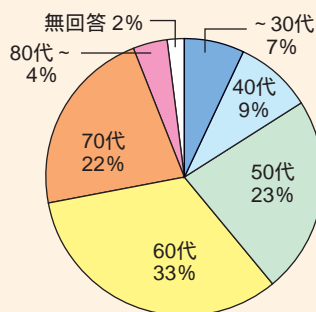
第44期中間事業報告書において実施させていただきました株主様へのアンケートの集計結果をご報告いたします。このアンケートには約1,500名の株主様からご回答いただきました。（回答率：8.8%）株主の皆様からいただいた貴重なご意見は、今後のIR活動の参考とさせていただきます。ご協力、ありがとうございました。

ご回答いただいた株主様のプロフィール

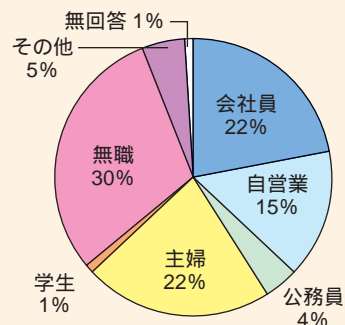
性別構成



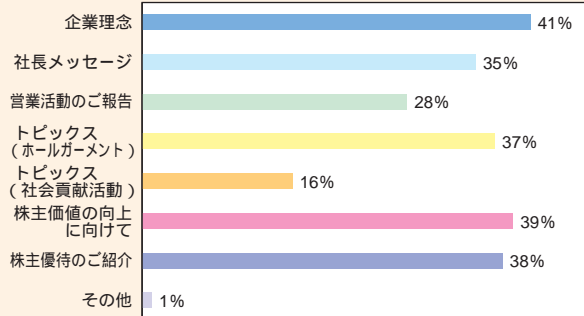
年代別構成



職業別構成

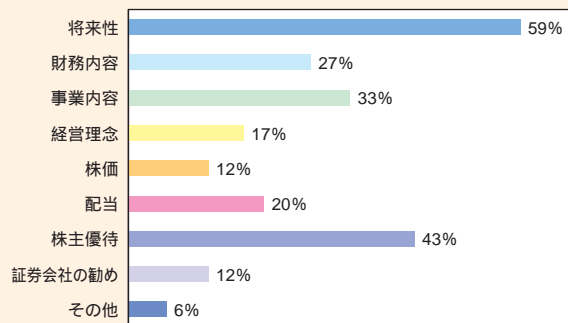


Q1：今回の事業報告書で特に興味を持たれた内容はどれでしょうか？（複数回答）



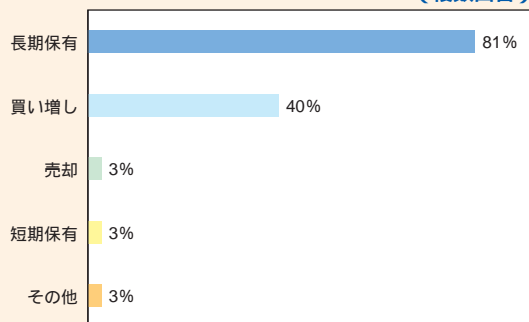
「企業理念」や「株主価値の向上」、「株主優待のご紹介」に特に関心を寄せていただきました。今後も企業理念を基本に、株主の皆様への利益還元を一層促進できますよう努めてまいります。

Q2：当社の株主になられた理由は何ですか？（複数回答）



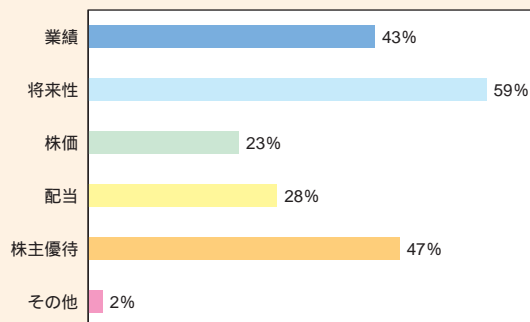
当社の株式を取得された理由をお聞きしたところ、「将来性」と「株主優待」が上位を占める結果となりました。将来性に関しては、当社の高い技術開発力を評価していただいているコメントが見受けられました。

Q 3 : 当社の株式について今後どのようにお考えですか？
(複数回答)



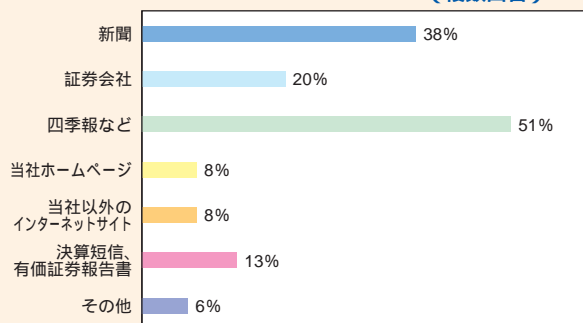
多数の方が、今後「長期保有」や「買い増し」をお考えのようです。このような株主様の期待に添えますよう、今後も業績の維持拡大に尽力してまいります。

Q 4 : Q 3の判断材料は何でしょう？ (複数回答)



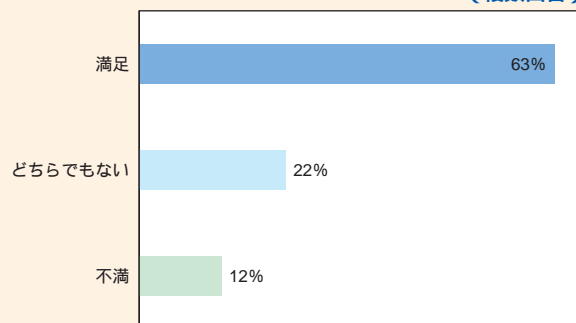
ここでも当社の「将来性」と「株主優待」が上位を占めており、皆様に期待されていることがうかがえます。

Q 5 : 当社の情報はおもにどこから入手されますか？
(複数回答)



「新聞」や「四季報など」から当社の情報を入手されている方が多くみられます。当社ホームページなどを一層充実させ、皆様のお役に立つ情報を提供できますよう努めてまいります。

Q 6 : 当社の株主優待制度の内容についてお聞かせ下さい。
(複数回答)

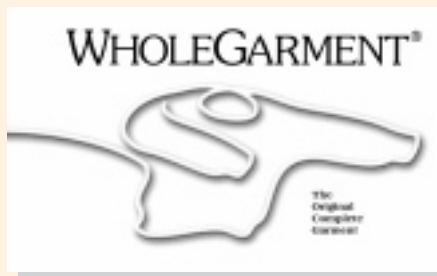


3月期につきましては、特色のある株主優待として好評いただいているようです。今後も皆様にご満足いただける優待品を企画・提供してまいります。

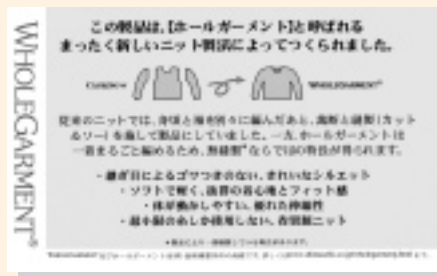
今回の株主様アンケートでは質問事項へのご回答の他に、多くの皆様から当社へのご意見・ご要望等をいただきました。ここでは代表的なご質問につきまして、回答させていただきます。

Q：ホールガーメント[®]はどこで売っていますか？

A：当社が開発したホールガーメント[®]（無縫製ニット）は国内外の大手アパレルを中心に採用が進んできており、多くの百貨店や専門店で販売されております。
商品には概ね下記の『WHOLEGARMENT』というタグがついていますので、それを目印にお探しいただくか、店員にお尋ねください。



表



裏

なお、ブランド独自のタグがついている商品や、タグがついていない商品もございます。

Q：会社見学の機会はありますか？

A：毎年6月下旬の定時株主総会終了後に会社見学会を開催しております。
工場やショールームなど社内をご案内いたしておりますので、ぜひその機会にご参加ください。

Q：配当性向の目標はありますか？

A：配当金は長期にわたる安定配当を継続しながら、配当性向も考慮しつつ経営成績の状況も勘案したうえで決定しております。
配当性向の目標値は最低限20%以上と考えておりますが、むしろ安定配当を優先したいと考えております。

Q：環境問題をどのようにお考えですか？

A：環境問題につきましては、地域環境への配慮を中心に、社会に貢献してまいりたいと考えております。工場におきましては周辺地域との調和に充分配慮するとともに、緑化に力を入れてきました。
また地域に対して緑化計画道路を無償で提供したり、工場屋上には太陽光発電装置を設置し省エネに努めるなど様々な取組みを実施しております。

会社概要

会社概要(2005年3月31日現在)

商号 株式会社 島精機製作所
 英訳名 SHIMA SEIKI MFG., LTD.
 本社 和歌山市坂田85番地
 創立 昭和37年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員 1,035名
 事業内容 コンピュータ横編機
 シームレス手袋編機、靴下編機
 コンピュータデザインシステム
 ニットCADシステム
 アパレルCAD / CAMシステム

役員(2005年6月29日現在)

役名	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正 博	
常務取締役	田 中 雅 夫	経理部長
取締役	岩 倉 煌 一	経営管理部長
取締役	京 谷 実	生産技術部長
取締役	森 田 敏 明	資材部長
取締役	和 田 隆	製造技術部長
取締役	後 藤 明 史	営業部長兼トータルデザインセンター部長
取締役	島 三 博	グラフィックシステム開発部長
取締役	片 桐 正二郎	企画部長
取締役	梅 田 郁 人	輸出部長
取締役	藤 田 紀	総務部長
常勤監査役	大 川 修	
常勤監査役	沖 殿 俊 幸	
監査役	的 場 悠 紀	弁護士
監査役	八 杉 昌 利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀・八杉昌利の両氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

事業所(2005年6月29日現在)

本 社 和歌山市坂田85番地
 支 店 東京支店(東京都中央区)
 大阪支店(大阪市北区)
 名古屋支店(名古屋市中区)
 泉州支店(大阪府泉大津市)

営業所 山形営業所(山形県山形市)
 福島営業所(福島県伊達郡保原町)
 新潟営業所(新潟県五泉市)
 甲府営業所(山梨県中巨摩郡昭和町)
 四国営業所(香川県東かがわ市)
 海外支店 台北支店(台北市)

株式の状況(2005年3月31日現在)

大株主

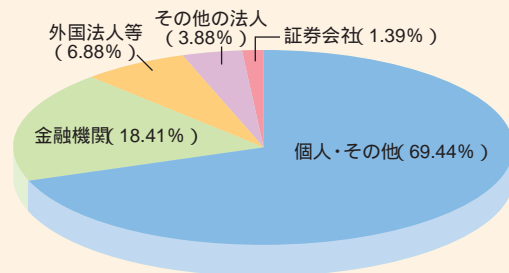
株主名	持株数	出資比率
島 正 博	4,685千株	12.46%
後 藤 明 史	2,390	6.36
島 三 博	1,980	5.27
和島興産株式会社	1,130	3.01
シマセイキ社員持株会	1,018	2.71
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,003	2.67
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	858	2.28
株式会社紀陽銀行	838	2.23
島 節 子	776	2.06
株式会社UFJ銀行	730	1.94

(注) 当社は、自己株式934千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

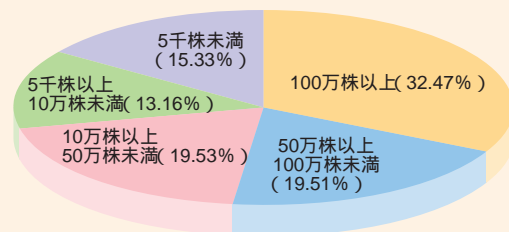
株式の状況

会社が発行する株式の総数 ...142,000,000株
 発行済株式の総数37,600,000株
 当期末株主数.....18,414名

所有者別分布

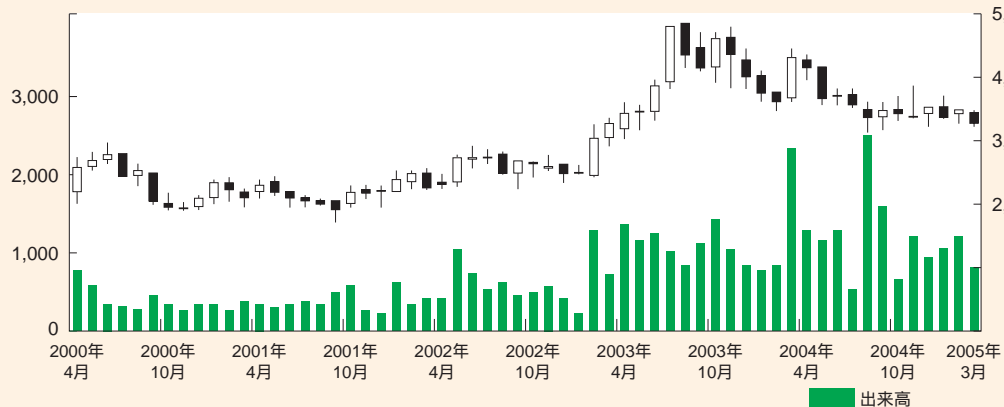


所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)

(単位：千株)



株主優待のご紹介

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しております。

3月期のご優待では、每期趣向を凝らして、国内では入手が困難なイタリア直輸入製品(ワイン、レース、ベネチアグラス等)や当社の横編機で編みたてられたオリジナルのホールガーメント[®](無縫製ニット)製品を特別企画品としてお贈りしてきました。

今回のご優待といたしましては、今年が1995年のホールガーメント[®]横編機の発売から10周年の節目でもあり、ニット製品(ホールガーメント[®]製品)を予定しております。

なお、ご優待のニット製品は、製造の都合によりお届けは秋から冬頃となる予定です。

お届けが遅くなりますが、なにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。



イメージ写真

内容の詳細等につきましては、あらためてご案内させていただきます。

【これまでの3月期の株主優待品】

ご所有の株数によりお届けしました製品は異なります。



調味料セット



ショール



ブランケット



イタリア・ワイン

(2003年3月期)

ホールガーメント製品



カーディガンとセーター



ネックウォーマー

(2002年3月期)



マフラー



レース

(2001年3月期)

株式・配当金等に関するご案内

配当金の郵便振替支払通知書の支払期間を過ぎ
てしまった場合のお取扱いについて

お受け取り期間を経過した郵便振替支払通知書
につきましては、郵便局でのお取扱いができな
くなりますが、配当金の支払開始の日から3年
以内であれば、当社名義書換代理人であるUFJ
信託銀行の本支店にてお取扱いができますの
で、ご持参またはご郵送ください。
なお、ご郵送の場合は、支払通知書の裏面にお
受け取り方法をご指定ください。

配当金の郵便振替支払通知書を紛失してしまっ
た場合のお取扱いについて

支払開始の日から3年以内であれば、お支払状
況を確認のうえ、配当金をお支払いすることが
できますので、当社名義書換代理人のUFJ信託
銀行までご連絡ください。
なお、未払いの確認とお支払いの手続きのため、
配当金のお受け取りまでに多少日数を必要とし
ますので、あらかじめご了承ください。

単元未満株式の整理をご希望の場合
(単元未満株式の買増・買取請求)

単元未満株式(100株未満の株式)をご所有の
株主様は、その単元未満株式と併せて1単元と
なるまでの株式を当社から購入(買増請求)さ
れるか、単元未満株式の当社への売却(買取請
求)ができます。
単元未満株式の買増請求・買取請求のお手続き
の詳細につきましては、当社名義書換代理人で
あるUFJ信託銀行までお問い合わせください。
なお、保管振替制度をご利用の株主様は、お取
引のある証券会社にお問い合わせください。

口座振込みによる配当金の受領をご希望の場合

当社の配当金は、ご指定の銀行など金融機関の
預貯金口座に直接お振込みができます。
口座振込による配当金の受領をご希望の株主様
は当社名義書換代理人のUFJ信託銀行までお問
い合わせください。
配当金の振込先をご指定いただきますと、以降
の配当金をご指定の口座に自動的にお振込みい
たしますので、安心・確実に配当金を受領でき
ます。

上記のほか当社株式に関するお手続きにつきましては、当社名義書換代理人のUFJ信託銀行までお問い合わせください。
【お問合せ先】 UFJ信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部
(0120) 094-777 (フリーダイヤル)

株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
配当金受取株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月下旬
基 準 日	毎年3月31日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞 なお、当社は貸借対照表および損益計算書を当社ホームページ (http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html) に掲載しております。

株 式 事 務 取 扱 場 所

名 義 書 換 代 理 人

東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
U F J 信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所

(お問合せ先)

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
U F J 信託銀行株式会社
大阪支店証券代行部
電話 (0120) 094 - 777 (フリーダイヤル)

同 取 次 所

U F J 信託銀行株式会社全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話 (フリーダイヤル) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪支店証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL (073) 471 - 0511

URL <http://www.shimaseiki.co.jp/>